

第31群 妊娠・分娩・産褥V (合併症) (208~214)

208. 妊娠中毒症における尿中線溶物質と、その病態像の解析—尿中 plasmin 活性を中心として—

(東京大)

中林 正雄, 荻野 雅弘, 金子 義晴
佐藤 和雄, 坂元 正一

目的: 妊娠中毒症の renal type においては, 糸球体内血液凝固, 線溶がその病態に関与していることを, 我々は尿中線溶物質 (FDP, plasminogen+plasmin (以下 PLS)) の動態より示唆してきた。しかし妊娠中毒症における尿中線溶活性の報告は少ない。今回我々は尿中 plasmin 活性の微量定量法を開発し, 妊娠中毒症, 子癇, DIC の尿中線溶物質と尿中 plasmin 活性について検討した。

方法: 尿中 FDP, PLS の定量は microtiter plate による RIA. 尿中 plasmin は lysine sepharose affinity chromatography で尿中 plasmin inhibitor を除去した後, plasmin を radiocaseinolytic method により定量。PLS を urokinase で十分に活性化した値を whole plasmin (以下 W.PI.) とした。

成績: 妊娠中毒症の軽症 renal type (15例) では, 尿中 W.PI は軽度上昇 (0.018 ± 0.007 CTA u/ml) し, そのほとんど (72±18%) が plasmin であり, 腎糸球体局所の線溶亢進が示された。重症 renal type (4例) では尿中 W.PI は高値 (0.047 ± 0.021 CTA u/ml) であるが, plasmin は低値 (8.2±5.6%) であり, 糸球体基底膜の器質的変化による血中 plasminogen の尿中への漏出, 及び plasminogen activator の枯渇, 又は plasmin inhibitor の増加が示唆され, 軽症と重症での腎の病態が異なることが明らかとなった。

妊娠中毒症の hypertensive vascular type (4例) では尿中 W.PI, plasmin 共に正常妊婦と同様に低値を示したが, 同様の type と考えられる子癇 (2例) の発作直後の尿中 W.PI は著明に高く (0.82, 0.11 CTA u/ml), plasmin はそれに比して低値 (1.5, 7.3%) を示し, 糸球体基底膜の異常な透過性亢進の為と考えられた。DIC (3例) では尿中 W.PI (0.095, 0.068, 0.033 CTA u/ml), 及び plasmin (97, 89, 66%) は共に高く, 全身及び腎局所の凝固線溶の異常亢進が示された。尚尿中 PLS と尿中 W.PI とは $PLS < 2 \mu\text{g/ml}$ では両者はよく相関した。

独創点: 尿中線溶活性の微量定量法を開発し, RIA による尿中線溶物質の定量と併せて検討することにより, 上記疾患の凝固線溶動態を知り, 腎局所での病態を解明した。

質問 (国立病院医療センター) 我妻 堯

1. Renal Type の Toxemia とは, いわゆる混合型のことですか?

2. そうであるとすれば純型 Toxemia の尿中線溶物質病態像とはどのような差異がありますか?

答弁 (東京大) 中林 正雄

1. 今回の症例に関しては renal type の中毒症というものは, 混合型中毒症に入るものです。

2. 純型の中毒症といわれるものの中には, 腎の病変 (蛋白尿) が主なものも, 又 hypertensive vascular type と考えられるものも入っているように思われます。

尿中凝固線溶物質は腎糸球体内凝固線溶の有無及び腎病変を知る目的であるので, そのみでは現在の妊娠中毒症の分類と完全に一致するとは思われません。今後純型中毒症といわれる症例について, 症例を重ねていきたいと考えています。

質問 (関東通信病院) 塚田 一郎

尿中線溶物質の測定によつて慢性腎炎+妊娠と慢性腎炎に妊娠中毒症が加重したものとの鑑別が可能とお考えですか。

答弁 (東京大) 中林 正雄

結論的には尿中線溶物質で慢性糸球体腎炎 (CGN) + 妊娠中毒症と CGN の悪化とを区別することは出来ません。CGN の増悪因子として糸球体内凝固線溶が最近注目されており, 妊娠は生理的にも hypercoagulability の状態と云われているので, その点では両者の差は少ないのではないかと思われます。私達は尿中 PLS を更に分子量, 活性等について検討しましたが, やはり両者には尿中線溶物質に関しては本質的差はありませんでした。

209. 妊娠時, 分娩時高血圧発症の成因における羊水内圧の意義

(大阪市立大)

島津 隆, 日高 敦夫, 駒谷美津男
池田 春樹, 須川 信

1) 目的: 妊娠中毒症, なかでも高血圧発症は初産婦, 双胎, 羊水過多症等に比較的多くみられ, 子宮筋緊